

株式会社エビスわかやま

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間：2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日)



作成日：2024 年 10 月 30 日



エコアクション21

認証番号 0013125

目 次

環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
事業の許可の内容	5
主な環境負荷の実績	
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7~10
環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	

環境経営方針

環境経営理念

私たち株式会社エビスわかやまは、「限りある地球資源の再活用」という基本理念のもと、本業である廃棄物の適正処理と RPF（固形燃料）の製造を通じて、循環型社会形成や地球温暖化防止へ貢献するための多様な取り組みや地域の環境保全活動に自主的・積極的に取り組みます。

事業活動においては、安全で安心していただける商品を効率よく、無駄なくタイムリーにお客様に提供することを当社のモットーとし、従業員一丸となって継続的改善をおこない環境経営に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 省エネルギー推進及び燃料削減により二酸化炭素の削減に努めます。
3. 自社の廃棄物の削減や受託廃棄物の再資源化の推進に努めます。
4. 水の有効かつ適正な利用により使用量の削減に努めます。
5. 環境に配慮したグリーン購入に努めます。
6. この環境方針は全従業員に周知徹底するとともに、公表いたします。
7. 地域の清掃活動や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2019年6月12日

改訂日：2022年9月14日

代表取締役社長 見澤 直人

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社エビスわかやま
代表取締役 見澤 直人
- (2) 所在地
本社・工場 和歌山県和歌山市西浜 1660 番地 13
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 工場長 合田 浩治 TEL:073-488-2425
担当者 管理部 海野 達也 [TEL:073-488-2425](tel:073-488-2425)
- (4) 事業内容
産業廃棄物の中間処理及び RPF（固形燃料）の製造
- (5) 事業の規模
法人設立 平成 28 年 10 月 27 日
資本金 1,000 万円
売上高 20,856 万円（2022 年 9 月 1 日～2023 年 8 月 31 日）
従業員数 9 名
延床面積 10,671.65 m²
受託した産業廃棄物の処分量（2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日）
中間処理量 9,350t うち再資源化量 9,350t

車両

車種	台数	備考
フォークリフト	2 台	排出ガス 2014 年基準適合車（2 台）
油圧ショベル	2 台	排出ガス 2014 年基準適合車、低騒音型（97 基準値） 2020 年燃費基準 100%達成建設機械（1 台）
ショベルローダー	2 台	排出ガス 2014 年基準適合車（2 台）
ダンプカー	1 台	
合計	7 台	

主要設備

名称	台数	備考
破碎機	2 基	処理能力 146.88t/日（24 時間）
成型機	2 基	処理能力 96.96t/日（24 時間）

□認証・登録の対象組織・活動

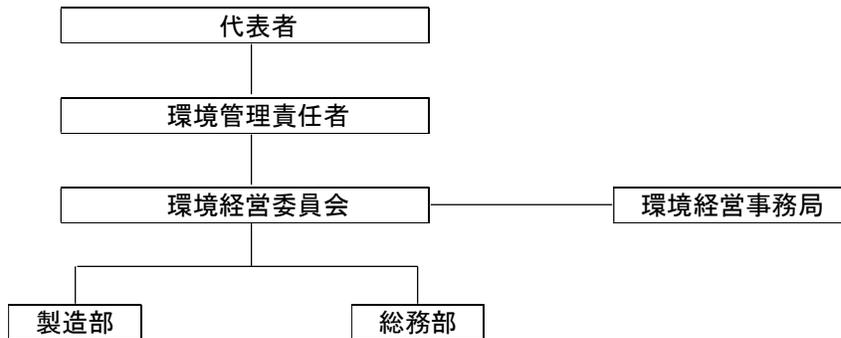
登録組織名：株式会社エビスわかやま
対象事業所：本社・工場
活動：産業廃棄物の中間処理及び RPF（固形燃料）の製造

□事業の紹介

産業廃棄物（主に廃プラスチック類、繊維くず等）から RPF（固形燃料）を製造することを通じて、循環型社会形成や地球温暖化防止へ貢献します。

産業廃棄物を RPF（固形燃料）としてリサイクルすることで、廃棄物の埋め立て処分場を延命できるだけでなく、RPF を石炭の代替燃料として使用することで、化石燃料の節約ができます。また RPF は石炭と比較して単位熱量あたりの CO2 排出量が約 30%少なく、CO2 削減にも貢献できます。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限

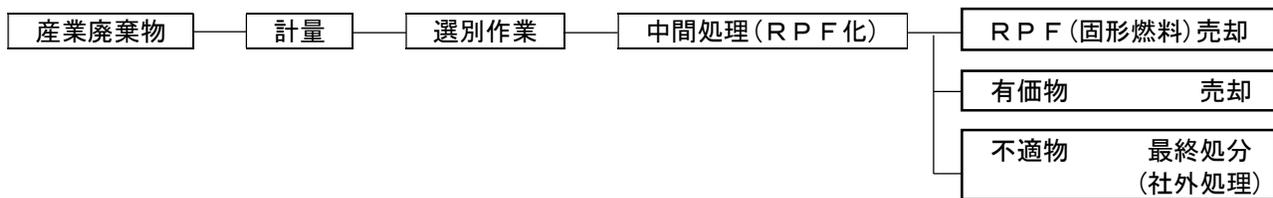


	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境経営事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく順守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境経営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境経営活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応の為の手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

□産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類						
					廃プラスチック類	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	動植物性残さ	
和歌山市	7220199701	令和5年1月30日	令和10年1月30日	破碎	○	○	○	○	○	○	
		令和5年1月30日	令和10年1月30日	圧縮固化	○	○	○	○	○	○	

□廃棄物処理フロー



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2018年	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	648,757	1,559,447	1,255,366	754,301	819,980
産業廃棄物処分量	トン	6,317	17,388	13,415	9,050	9,350
廃棄物排出量	トン	3.4	8.8	24.3	3.5	0.1
一般廃棄物	トン	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1
産業廃棄物	トン	3.2	8.4	24.1	3.4	0
水使用量	m ³	1,337	2,339	2,788	1,948	1,784

※二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh 関西電力 令和4年度実績 調整後係数 (2022年度までは0.418kg-CO₂/kWh(2017年度・関西電力・調整後排出係数)を使用、2023年度以降は0.434(2022年度・関西電力・調整後排出係数)を使用)

□環境経営目標及びその実績

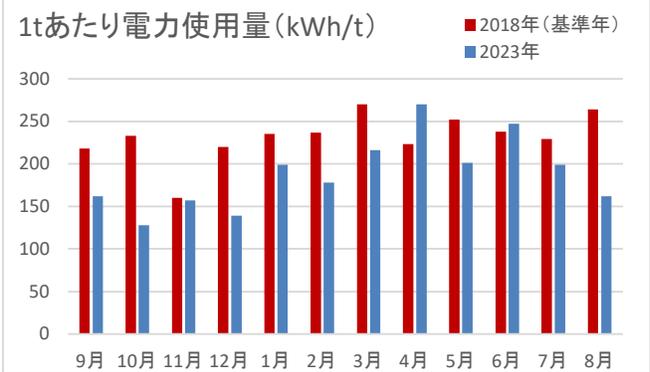
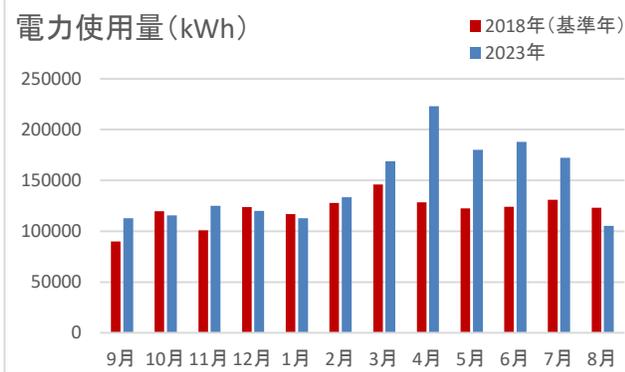
項目	年度	単位	基準値	2023年		評価	2024年	2025年	
			(2018年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電力による二酸化炭素削減		kg-CO ₂	607,370	577,002	762,412	×	754,788	747,164	
		基準年度比	-	95%	126%		99%	98%	
電力による二酸化炭素削減 (産業廃棄物処分量1tあたり)		kg-CO ₂	96.14	91.33	81.54	○	80.72	79.91	
		基準年度比	-	95%	85%		99%	98%	
自動車燃料による二酸化炭素削減		kg-CO ₂	41,387	39,318	57,569	×	56993	56418	
		基準年度比	-	95%	139%		99%	98%	
自動車燃料による二酸化炭素削減 (産業廃棄物処分量1tあたり)		kg-CO ₂	6.55	6.22	6.16	○	6.10	6.04	
		基準年度比	-	95%	94%		99%	98%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO ₂	648,757	616,320	819,980	×	811,780	803,580	
		基準年度比	-	95%	126%		99%	98%	
上記二酸化炭素排出量合計 (産業廃棄物処分量1tあたり)		kg-CO ₂	102.70	97.57	87.70	○	86.82	85.95	
		基準年度比	-	95%	85%		99%	98%	
産業廃棄物のリサイクル率向上		%	99.9	99.9	100.0	○	99.9	99.9	
水道水の削減		m ³	1,337	1,270	1,784	×	1,766	1,748	
		基準年度比	-	95%	133%		99%	98%	
水道水の削減 (産業廃棄物処分量1tあたり)		m ³	0.21	0.20	0.19	○	0.19	0.19	
		基準年度比	-	95%	90%		99%	98%	
化学物質の適正管理			除草剤の適正管理						

※2024年度以降の目標値は2023年度を新基準年度として変更しています

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物処分量 1t あたり電力使用量については3/4の月次評価と累計評価で目標を達成した。各活動についてもおおむね実施できた。前年度より稼働時間の増加が課題だったが、人員の退職による不足、また業界内でRPFの製造に必須な廃プラスチック類が取り合いになっていることなどにより難しくなった。人員は新規雇用したものの交代勤務ができるまで技術を習熟させる必要があること、廃棄物の調達と思うように伸びなかった結果微増という形になった。年度後半からコンプレッサーや風送ライン、破砕機など工場全体で大幅な修繕をしており、トラブルの頻度が減少することを見込んでいる。排出係数を見直した。次年度も産業廃棄物の調達と稼働時間の増加に努める。
・空調温度の適正化（冷房 28℃, 暖房 20℃）	○	
・空調フィルターの定期清掃・交換	○	
・不要照明の消灯	○	
・生産効率の維持管理（消耗部品の定期交換）	○	



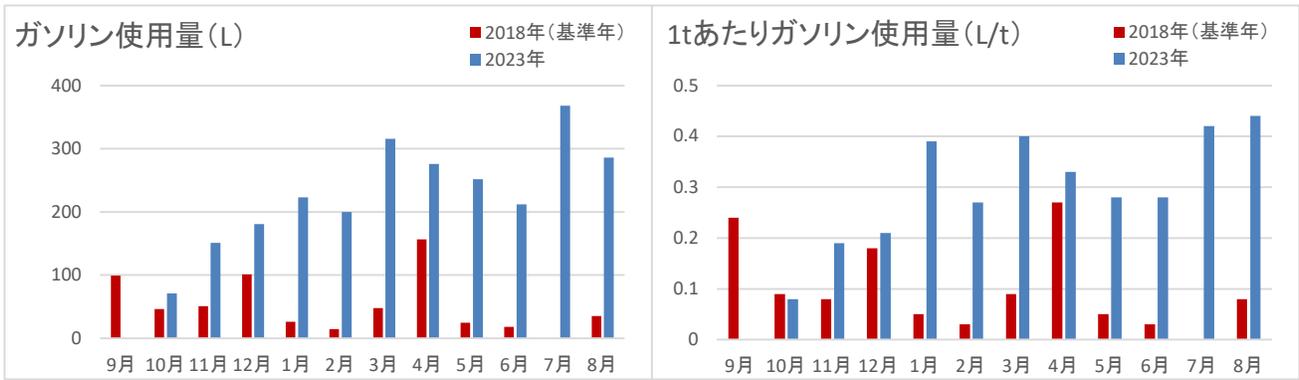
電力使用量 (kWh)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	89929	119608	100928	123839	116673	127676	145836	128225	122359	124234	130735	122997
2023年	112577	115485	124946	120020	112649	133479	168824	223062	179902	187902	172510	105353

産業廃棄物処分量 1t あたり電力使用量 (kWh/t)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	218	233	160	220	235	237	270	223	252	238	229	264
2023年	162	128	157	139	199	178	216	270	201	247	199	162

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物処分量 1t あたりガソリン使用量について10月以外の月次評価と累計評価で目標を達成できなかった。産業廃棄物処分量 1t あたり軽油使用量について5/12の月次評価と累計評価で目標を達成できた。各活動についてはおおむね実施できた。軽油は重機・ダンプカー・緊急時の発電機、ガソリンは営業車などの乗用車と草刈り機に使用している。主に関西圏から廃棄物を新規で調達するなどのために和歌山に常駐の営業担当を配属した為、ガソリンの使用量が増加した。基準年度のガソリン使用量が非常に少ないこと、廃棄物調達の維持や拡大に関西圏などの重点的な営業活動が不可欠の為、今年度を基準年にする事も考慮に入れる。ユンボを一車新しい車両に入れかえることを検討している。次年度も産業廃棄物の調達と稼働時間の増加に努める。
・重機アイドリングストップ	○	
・車両の自主点検	○	
・各車両の燃費を記録・管理	○	

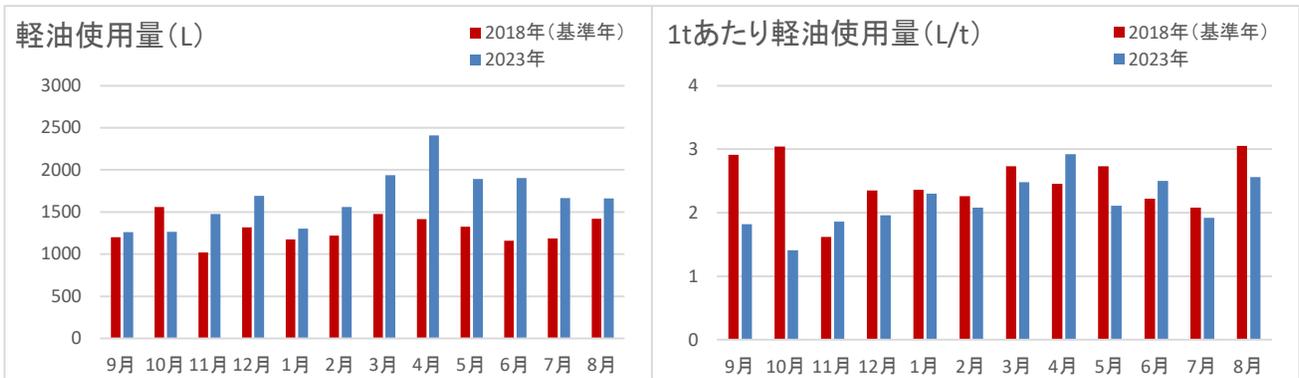


ガソリン使用量(L)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	99	46	51	101	26	15	48	157	25	18	0	35
2023年	0	71	151	181	223	200	316	276	252	212	368	286

産業廃棄物処分量 1tあたりガソリン使用量(L/t)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	0.24	0.09	0.08	0.18	0.05	0.03	0.09	0.27	0.05	0.03	0	0.08
2023年	0.00	0.08	0.19	0.21	0.39	0.27	0.40	0.33	0.28	0.28	0.42	0.44



軽油使用量(L)

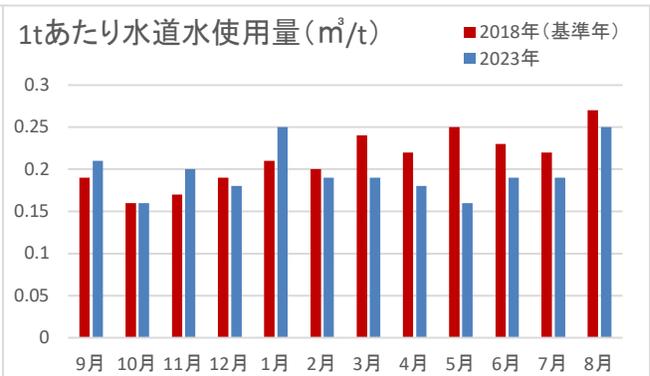
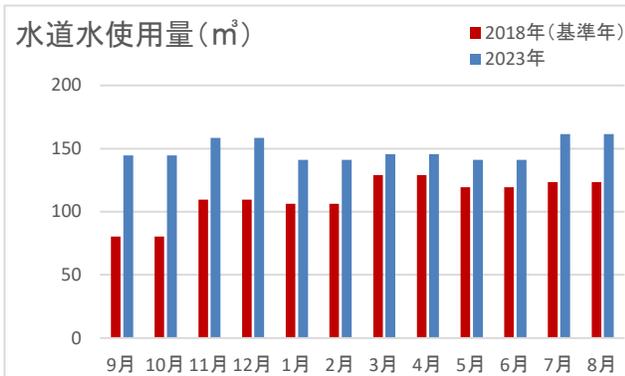
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	1203	1560	1022	1320	1174	1220	1475	1415	1327	1160	1188	1419
2023年	1261	1268	1476	1691	1302	1560	1938	2409	1894	1904	1668	1662

産業廃棄物処分量 1tあたり軽油使用量(L/t)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	2.91	3.04	1.62	2.35	2.36	2.26	2.73	2.46	2.73	2.22	2.08	3.05
2023年	1.82	1.41	1.86	1.96	2.3	2.08	2.48	2.92	2.11	2.5	1.92	2.56

産業廃棄物のリサイクル率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	PVC（ポリ塩化ビニル）及びがれき類など、リサイクル化製造に適さない廃棄物の分別の依頼・選別の徹底を引き続き実施できた。専任の営業担当を配属した為従来よりも手厚い対応が可能になった。
・リサイクル率向上のため分別徹底の強化	○	

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	産業廃棄物処分量1tあたり水使用量について、8/12の月次評価と累計評価で目標を達成した。各活動もおおむね実施できた。引き続き設備の維持管理・産業廃棄物の調達と稼働時間の増加に努める。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・芝生の散水量の管理	○	



水使用量(m³)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	81	81	110	110	107	107	129	129	120	120	124	124
2023年	145	145	159	159	141	141	146	146	141	141	162	162

産業廃棄物処分量 1t あたり水使用量 (m³/t)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2018年	0.19	0.16	0.17	0.19	0.21	0.2	0.24	0.22	0.25	0.23	0.22	0.27
2023年	0.21	0.16	0.2	0.18	0.25	0.19	0.19	0.18	0.16	0.19	0.19	0.25

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・定期的に手作業での除草を実施	△	今年度は除草剤の散布をしなかった。今後も化学物質の適正管理に努める。
・化学物質の適正管理	○	

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・環境負荷の少ない備品・車両・機械の購入	○	グリーン購入の周知と徹底を実施できた。

地域の清掃	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・工場敷地周辺の清掃	△	工場周辺の清掃については実施したが地域の美化活動へは参加しなかった。今年度末に周囲の業者から飛散物があると連絡が入った。主に RPF 出荷時に舞う細かなほこりが風に乗って飛散したとみられ清掃では限界があるため、出荷時の散水・慎重な積込・壁の増設など対策をとる。
・地域の美化活動への参加	×	

□環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです

適用される法規制	適用される事項（施設・物資・事業活動等）	順守状況
廃棄物処理法	中間処理許可証, 処理施設許可証, 産廃保管基準, マニフェスト	○
浄化槽法	浄化槽の定期水質検査及び点検維持管理	○
フロン排出抑制法	業務用空調機, エアドライヤーなどの簡易点検	○
消防法	廃棄物, 製品(固形燃料)の保管ヤード*, 少量危険物の保管場所の設置, 明示	○
グリーン購入法	エコ商品の購入	○
オフロード法	バックホー, ショベルローダー, フォークリフト等の特定自主検査	○
道路交通法	貨物積載時での車両の長さ, 幅, 高さ, 積載重量の制限, 酒気帯び運転等の禁止	○
大気汚染防止法	特定施設（一般粉じん発生施設）設置届出, 飛散や異音の日常管理	○
騒音規制法	特定施設（破碎機, コンプレッサ等）の届出, 地域騒音基準の順守	○
振動規制法	特定施設（破碎機, コンプレッサ等）の届出, 地域振動基準の順守	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境関連証規制等は順守されていました。なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急時対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2024年4月24日 ■参加者： 工場作業員8名	■実施場所： 本社工場 ■実施内容： 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 消火活動の手順、消火設備の場所等、適切に理解できている。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

■実施状況の様子

・消火手順・設備の使用方法確認



□代表者による全体の評価を見直し・指示

環境負荷の削減について、全体では前年度より数値が増加したが、産業廃棄物処分量 1t あたりの電力・燃料・水使用量で目標を達成した。要因としては、各取り組みをおおむね実施できたこと、設備の修繕をすすめられたこと、前年度より廃棄物の調達をすすめられたことなど。人員不足も解消しつつあり、産業廃棄物の調達さえできれば 24 時間稼働も現実的な体制となった。営業担当を配属したが、外部環境の変化（廃棄物の取り合いになっている）から調達する廃棄物のボリュームは思うようには伸びなかった。ガソリン使用量が増加したが、廃棄物の処分量の増加ないしは維持に不可欠で今後大幅に削減することが難しい。そのため前年度の審査で基準年を 2022 年度にすることを勧められたが、今年度を基準年にしたい。設備の劣化と基準の見直しで削減率は鈍化すると思われるが、ひとまず次年度も 1% の削減を目標値とし、結果次第で目標を修正する予定。引き続き環境負荷削減のための活動を実施し、設備を適切に運用、廃棄物のボリュームを確保して、目標達成を目指す。

環境経営方針
環境経営目標・計画
実施体制

- 変更なし
- 変更あり
- 変更なし
- 変更あり
- 変更なし
- 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

